

長崎港「海の日」航海安全および大漁祈願祭 物故船員慰霊祭

7 月 14 日、長崎市を見下ろす高台に鎮座する「鎮西大社 諏訪神社」で、長崎港「海の日」航海安全および大漁祈願祭と物故船員慰霊祭が執り行われ、組合執行部と水産・海事関係者 11 人が参列した。

「諏訪神社」にまつられている「諏訪大明神」は漁業や航海安全の神として全国に社が存在し、長崎市では総氏神様として広く市民から信仰されている。また、長崎市における「諏訪神社」は、諸説あるが、戦国時代の 1555 年に創建されたと言われ、現在に至っている。

祈願祭は宮司による祈祷から始まり、巫女の神楽が奉納され、参列者が玉串を奉奠し、航海の安全と大漁、海運・水産産業のさらなる発展を祈願した。

その後、物故船員慰霊祭を執り行い、沖で亡くなった仲間たちの冥福を祈り、海難事故の撲滅を強く誓った。

「海員だより」